

視 察 研 修 等 報 告 書

令和7年 6月 2日



坂井市議会

議 長 佐藤 寛治 殿

会 派 名	創政会
報 告 者	林豊夏

1. 日 時 令和7年5月7日（水） ～ 5月8日（木）
2. 視察研修先 地方議員研究会セミナー
福岡県福岡市博多区博多駅東1-16-14 リファレンス駅東ビル
3. 視察研修内容 セミナー受講
5/7（水）14：00～16：30 宮本講師 議会質問の基礎，
5/8（木）10：00～12：30 宮本講師 生成A I（チャットGPT）の基礎，
5/8（木）14：00～16：30 宮本講師 財政問題の取り上げ方
4. 参加者 林 豊夏
5. 内容詳細

「議会質問の基礎」

1. 一般質問づくりの基礎

最初に、効果的な質問を作成するための基本的な方法が紹介されました。

- 質問の設計方法として「質問の木」を用いて、大きなテーマから具体的な質問を枝分かれさせる手法が紹介されました。これにより、質問が体系的に整理され、効率的に議論を深めることができます。
- テーマ選定の重要性では、市民ニーズや実行可能性を反映させることが強調され、当該自治体の計画や財政状況を踏まえた現実的なテーマ選定が求められました。
- 質問作成ステップでは、問題発見、調査・ヒアリング、論点整理から設問作成までの流れを学びました。

2. 質問の効果と答弁の切り返し

次に、質問の効果と答弁への対応方法について学びました。

- 質問の狙いは、単に情報を得るだけでなく、行政の行動を促進し、政策提案を行うことだと解説されました。
- 良問と悪問の違いとして、数字を聞くだけの質問や曖昧な質問は避け、背景や理由を問う質問が効果的であることが説明されました。
- 答弁の切り返しでは、曖昧な答弁に対する再質問の方法を学び、再質問の「型」を持つことが重要だと強調されました。

3. 地方自治法の要点

最後に、地方自治法に基づく議会質問の基本的な知識を学びました。

- 議員の権限と制限として、議員には予算案や条例案の提案権がある一方、質問できない場面についても理解が深まりました。
- 資料の見方として、予算書や事業計画書をどのように分析し、質問に活用するかについての実践的な方法が紹介されました。
- 情報公開請求の活用に関して、非公開情報にアクセスする手段として情報公開請求の重要性が説明されました。

「生成 AI の基礎」

セミナー「生成 AI (ChatGPT) の基礎」では、議員活動における生成 AI の活用方法とその実践スキルを学びました。特に、AI を議会業務に活用する方法や、AI にできることと議員にしかできないことについて理解を深めることができました。

1. まずアプリを入れて触ってみよう

セミナーの初めに、ChatGPT の基本的な使い方を実際に体験しました。アメリカの OpenAI 社が開発した生成 AI 「ChatGPT」の特徴として、膨大な言語データから文章を生成する能力が紹介されました。実際にスマホや Web 版アプリを使い、簡単な質問から表の作成、文章生成まで行えることを体験しました。

2. AI にできて議員にできないこと

AI の得意なこととしては、情報整理や要約、法律文書や政策文書の比較、データベース検索などが挙げられました。これらの作業は AI が得意とする分野で、議員業務の補助として非常に有効です。議員にはできないこととして、市民との信頼関係構築や現場感に基づく判断力が求められる点が強調されました。AI は補助的な役割を果たすものの、最終的な判断は議員自身の責任で行うべきです。

3. 効果的な指示の方法や活用事例

効果的な指示（プロンプト）の方法では、AI に具体的な条件や背景を伝えることが重要だと学びました。5W1H の基本を活用し、例えば「高齢者施策について 200 字で政策提案を」というように指示を出すことで、求める結果を得やすくなります。議員活動での具体的な活用例として、一般質問のたたき台作成や地域課題のデータ整理、SNS 発信文の作成が紹介され、実際の業務にどのように活用するかを理解しました。

4. 質問作りへの応用

AI を使って質問作成の下準備ができる方法が紹介されました。テーマ選定のアイデア出しや、質問の「型」を提案させることで、質問づくりの壁を越えることができます。また、実際に AI に「〇〇についての質問文を考えて」と入力し、出力された文を自分の視点で修正することで、より適切な質問が作成できることを体験しました。

「財政問題の取り上げ方」

セミナー「財政問題の取り上げ方」では、地方財政を理解し、データに基づいた財政チェックの方法を学ぶことができました。特に、財政指標の読み方や実際の事例を通じて、議員としての財政問題の取り上げ方を実践的に学びました。

1. 財政の基本指標

セミナーの冒頭では、地方財政を評価するための基本的な指標が紹介されました。

- **実質赤字比率**は赤字の実態を示し、実質単年度収支の状態を把握するために重要です。
- **将来負担比率**は、将来にわたる財政負担のリスクを示し、いわば「信号機」として活用できる指標です。
- **経常収支比率**は財政の硬直度を示し、特に人件費などの固定的支出の割合が高い自治体では注視すべき項目です。

2. 決算カードの読み方

次に、地方自治体が公開する決算カードの読み方を学びました。決算カードは、自治体の財政状況を簡単に把握できるツールで、特に 1 人あたりの税収や支出の状況をチェックすることが重要です。また、自主財源と依存財源の割合、そして歳出の内訳（民生費、土木費、教育費など）を読み解くことで、自治体がどのような財政運営をしているかが見えてきます。

3. 生成 AI の活用法

生成 AI（ChatGPT など）の活用方法についても学びました。AI は、財政分析や過去データとの比較に役立つツールとして紹介され、プロンプトを工夫することで、財政弱点の洗い出しや議会質問のたたき台作成を効率的に行えることが理解できました。実

際に、過去のデータと比較しながら財政問題を洗い出す方法を学び、これを議会での実務にどう活かすかを考えることができました。

4. 夕張市の教訓

セミナーでは、財政破綻を引き起こした夕張市の事例を取り上げ、財政破綻の背景やその過程を学びました。

- 夕張市は、観光に依存した財源構造が問題であり、人口減少と事業拡大の悪循環に陥りました。
- 破綻に至る過程では、赤字の隠蔽や過度な借金が行われ、最終的に市民サービスの大幅カットや税金の引き上げに至ったことが紹介されました。

議会は定期的な財政チェックを行うことの重要性が強調され、先送りが最大のリスクであることが指摘されました。

6. 所見・感想等

『議会質問の基礎』

今回のセミナーを通じて、地方議会における質問力を高めるための実践的な方法を多く学ぶことができました。特に、質問を設計する際に「質問の木」を使う方法は非常に役立つと感じました。大きなテーマから具体的な質問を枝分かれさせることで、議論を整理し、効率的に進めることができると実感しました。また、テーマ選定では、市民のニーズや当該自治体の状況を考慮した現実的なアプローチが重要であることが改めて確認できました。

質問の効果的な切り返しに関しても、行政の答弁に対してどのように再質問を行い、意図を明確に伝えるかを学びました。再質問の「型」を覚えることで、時間制限の中でも要点を伝えるスキルが向上することを実感しました。質問だけでなく、答弁者とのやり取りをどう進めるかを理解することが、議会での有効な議論に繋がると感じました。

地方自治法に基づく権限や制限についても、具体的に学べたことは非常に有益でした。議員としての権限を理解することが、自信を持って質問を行うための土台となり、この知識を今後の議会活動に活かしていきたいと思います。

『生成 AI の基礎』

生成 AI (ChatGPT) を使うことで、議員活動における業務がどれだけ効率化できるかを実感しました。特に、情報整理や要約、資料作成の際に AI を活用することで、議会業務の負担が軽減されたと感じました。AI に頼るだけでなく、最終的な判断や市民との信頼関係の構築は議員自身にしかできないという点が強調されたことに納得しました。また、プロンプトの使い方を工夫することで、AI をより効果的に活用できると実感しました。具体的な指示を出すことによって、AI から必要な情報を引き出すことができ、議員活動の効率が大幅に向上する可能性があると感じました。今後、一般質問や地域課題の整理に AI を積極的に活用し、時間の節約と質の向上を図りたいと思います。

AI はあくまで補助的な役割を果たすものであり、最終的な判断や発言は議員自身の責

任で行うべきであることを再認識しました。今後も継続的に AI を使いこなしていき、議会活動の改善に繋げていきたいと考えていきます。

「財政問題の取り上げ方」

財政問題に関するセミナーを通じて、財政指標の読み方や決算カードの活用方法について、実務に即した知識を得ることができました。特に、実質赤字比率や将来負担比率など、財政状態を正確に把握するための基本的な指標を理解できたことが大きな収穫です。また、決算カードを使った自治体の財政分析は、今後議会活動で必要なスキルとして非常に有用だと感じました。

生成 AI を活用した財政分析やデータ整理についても、非常に効果的なツールであると感じました。AI を使って過去の財政データと比較し、財政弱点を洗い出す方法は、議会での質問作成にも役立つと思います。これからは、AI をうまく活用して、財政チェックや議会質問をより効率的に行いたいと考えています。

また、夕張市の事例を通じて、「先送り」のリスクがいかに大きいかを再認識しました。財政問題を早期に発見し、議会が定期的にチェックを行うことの重要性を強く感じ、これを今後の議会活動に活かしていきたいと思っています。

7. 添付書類

